



令和5年10月25日

## 兵庫県内経済情勢報告 (令和5年10月判断)

### 1. 総論

#### 【総括判断】「持ち直している」

項目	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### (判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。以上のことから、県内経済は、持ち直している。

#### 【各項目の判断】

項目	前回 (5年7月判断)	今回 (5年10月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	→
設備投資	5年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	5年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	5年度通期は減益見込みとなっている	5年度通期は減益見込みとなっている	→

#### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、夏物商品の売れ行きが好調であるなどの要因から、増加率は前期よりも上昇している。

ショッピングセンター販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、コロナの「5 類」移行による人流の更なる回復などの要因から、増加率は前期よりも上昇している。

コンビニエンスストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、増加率は前期よりも下降している。

ドラッグストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、増加率は前期よりも下降している。

ホームセンター販売額は、前期は前年を下回っていたものの、今期は前年を上回っている。

家電大型専門店販売額は、前期は前年を下回っていたものの、エネルギー価格の高騰により省エネ商品の売れ行きが好調であるなどの要因から、今期は前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、増加率は前期よりも下降している。

宿泊施設では、コロナの「5 類」移行による経済回復やインバウンドの回復により、稼働率は堅調に推移している。

これらのことから、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 猛暑によりスキンケア商品や夏ギフトの売れ行きが好調であるほか、インバウンド需要もありラグジュアリー商品の売上が大幅に増加している。(百貨店)
- 外出機会の増加により、宅配の利用件数や点数が低下している。卵や乳製品の値上がりにより売上は確保できている一方で、単価の安い商品を選好するといった節約志向の傾向が見られる。(スーパー)
- 前期と比較してトレンドの大きな変化はないが、売上額については緩やかに上昇傾向であり、好調を維持。客数についても、コロナ禍前のレベルには届かないが、8割ほどに回復しており、緩やかに増加傾向である。  
(ショッピングセンター)
- コロナの5 類移行により、各種イベントがコロナ前と同規模で実施されることが多くなったことから、人流の回復が見られる。(コンビニエンスストア)
- 猛暑日が続いたこともあり夏物商品が好調であった。また、インフルエンザやコロナの感染者数が増加傾向にあることから、マスク、解熱剤などの売行きも好調であった。(ドラッグストア)
- 記録的な暑さの影響によりエアコンが好調。また、エネルギー価格の高騰により省エネ性能が高い商品も好調となっている。(家電量販店)
- 販売台数について、4-6 月期と比べると減少となるが、お盆休みなどで店舗の稼働日が少ないためであり、その影響を除くと堅調に推移している。(自動車販売店)
- 人流の回復効果から夏休み等の家族連れを中心に稼働率は好調に推移している。(宿泊)

## ■ 生産活動「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数（生産）は、「輸送機械」や「化学」等が上昇しているものの、「電気・情報通信機械」や「生産用機械」等が低下している。一方、企業からは、コロナ禍より受注は増加しており、今後は更なる回復を見込んでいるとの声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は、緩やかに持ち直している。

### （主なヒアリング結果）

- 半導体については、各メーカーが在庫調整を行っていることから、低調となっている。（電気機械）
- 自動車産業向けについて、半導体の供給不足解消から自動車生産は回復していると言われていたものの、当社の受注までには繋がっていない。（生産用機械）
- 配送センター向けプラント関連について、直近3年間はEコマース関連などで大口の受注があったが、今期はそういった受注もなく一服感がある。ただし、1年、2年先に納期となる受注残は相応にある。（汎用機械）
- 人流の回復に伴い輸送用機械の需要が高まり、コロナ禍において低調となっていた更新投資も再開されるなど、国内向け・海外向けとも回復基調が続いている。（輸送機械）
- 日用品関連について、世界的な不景気から足元では売上が低調となっているものの、今後は回復を見込んでいることから、数量を減少させることなく生産を行っている。（化学）
- 自動車関連については、コロナ前と比べると10%程度減少しているものの、徐々にではあるが回復してきている。IT・半導体関連については、メーカーなどの在庫調整が続いており、横ばいの状況である。（鉄鋼）

## ■ 雇用情勢「テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある」

令和5年8月の有効求人倍率は、受理地別では0.99倍、就業地別では1.15倍で推移している。

また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和5年7~9月期調査では23.6%ポイントと引き続き「不足気味」超となっている。

以上のことから、雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。

### (主なヒアリング結果)

- 新規求人数は、製造業や建設業、運輸・郵便業が前年同月比で減少傾向となっている。物価やガソリン、光熱費の高騰の影響により経営が厳しく、求人を控える動きが見られる。一方、小売業は個人消費の回復により求人数は増加傾向である。(公的機関)
- 営業部門の人員が引き続き不足しているが、求人を出してもなかなか集まらない。食料品業界自体が厳しいとのイメージもあるものと考えられる。(食料品)
- 余剰人員がおらず、全体的に忙しい。製品を納品した後のメンテナンス職員は体力的にきつく、若手が辞めており高齢者が残っている。(業務用機械)
- 業界全体で言えることだと思われるが、現場作業員が高齢化しており若者を採用したいが、求人を出しても、事務職の仕事はすぐ決まるのに対して、現場作業員ではなかなか応募が来ず確保できていない状況。受注が増加していることもあり、より不足感が高まっている。(パルプ・紙)
- 現場作業員が不足しており、求人を行っているもののアルバイトでさえ応募がない状況。事務仕事もあるが、体力が求められるとのイメージ先行で敬遠されているのではないか。(その他運輸業)
- 賃上げは一定実施しているが、特に販売員で不足が生じている状況。求人は行っているが、年々厳しくなっている。(卸売)

## ■ 設備投資「5年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査(令和5年7~9月期調査)でみると、5年度通期の設備投資は、製造業では「輸送用機械」、「化学」等が前年度を上回っており、非製造業では「運輸・郵便」、「不動産」等が前年度を上回っていることから、全産業では「前年度を上回る見込み」となっている。

## ■ 企業収益「5年度通期は減益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査(令和5年7~9月期調査)でみると、5年度通期の経常利益は、製造業では「情報通信機械」等が増益見込みとなっているものの、非製造業では「運輸・郵便」等が減益見込みとなっていることから、全産業では「減益見込み」となっている。

## 【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数（令和5年8月、後方3ヶ月移動平均）でみると、前年を下回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額（令和5年9月、年度累計）でみると、前年を上回っている。
- **輸出入** 神戸港の通関実績（円ベース、令和5年6～8月、3ヶ月平均）でみると、輸出は、建設用・  
鉱山用機械、原動機等が増加していることから、前年を上回っている。  
なお、輸入は、前年を下回っている。
- **企業倒産** 企業倒産件数（令和5年7～9月、3ヶ月平均）は、前年を上回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和5年7～9月期調査）の景況判断BSIでみると、現状判断は  
「下降」超となっている。  
先行きについては、全産業でみると、令和5年10～12月期に「上昇」超に転じ、令和6年  
1～3月期は「上昇」超で推移する見通しとなっている。

【問い合わせ先】  
神戸財務事務所 財務課  
TEL：078-391-6942